

ご紹介ありがとうございます。

スタラーチェ氏は現在テレビや新聞を賑わしているエネル・グリーン・パワーの株式上場の件でご多忙を極めており、本日はお越しいただけませんでした。彼の名においても、ザッパ会長と佃会長に、この総会にご招待下さったことを感謝いたします。

我々エネル・グリーン・パワーは、イタリアおよび日本の重要企業間提携の証人として、スピーチができます。佃会長よりたった今お話いただいた再生可能エネルギーは、産業界では現在重要なテーマです。ここで、産業界として成長している再生可能エネルギー界についてざっと簡単に説明したいと思います。まず数字としては、現在世界では 1000 ギガワット以上の再生可能エネルギーが生産されています。風力、太陽、バイオマス、水力発電やその他のテクノロジーによるものです。ご覧になれるように地域的に使用されるテクノロジーがくっきりと分かれています。2008 年から 2009 年にかけてすべての再生可能テクノロジーが飛躍的に成長しました。その中でも顕著なのは太陽光発電です。こういったデータは、我々のように再生可能エネルギーを信じて投資しているものに、一種の安堵感を与えてくれます。実際、エネル・グリーン・パワーではエネル・グループのすべての資産を集めて、この先数年で大きく成長しようとしています。

エネル・グリーン・パワーは世界でもその存在感を増しております。アメリカ、ヨーロッパ、そして極東など 16 カ国以上で 5000 メガワット以上の発電所を展開しています。すべてのテクノロジーはそれぞれの現場で採用されており、中長期的にはパイプラインを利用したプロジェクトで 30 ギガワットまで達したいと思っております。

エネル・グリーン・パワーのポートフォリオから見ると、水力発電、地熱などすべてのテクノロジーの中でも、これからは太陽光発電を伸ばす必要があります。シャープとの協力についても後ほどお話ししますが、我々は現在では水力発電、地熱発電においてはリーダー的存在であります。

太陽光発電産業というのは、再生可能エネルギーをよく知っている人であれば、過去 10 年間で著しく成長したのをご存じでしょう。特にここ 3 年の発展はめざましいものがあります。

ヨーロッパは太陽光発電市場において最低 70% のシェアを占めており、重要な役割を果たしています。そしてこの先 4 年を予測してみますと、10 万メガワット以上まで達するでしょう。このようなデータにより、エネル・グリーン・パワーが太陽光発電においてどこにポジショニングすべきか理解することができます。

このスライドでは、我々が太陽光発電のバリューチェーンの中でどこにポジショニングすべきかを示しています。まず一つはアップストリームを指し、シャープと ST マイクロエレクトロニクスとのジョイントベンチャーの話にもつながりますが、エネル・グリーン・パワーは太陽光発電所の設計・建設を行うというポジションになります。それからもう一つは、これも別のシャープとの協力によるものとなりますが、バリューチェーンの最終段階、すなわちリテールで、これはシャープと作った会社を通じて、あるいは当グループのエネル・シーという会社によって最終ユーザーへの供給することを考えています。

さて、以上が前置きでして、これから昨年より我々に起こったことについて話していきたいと思っております。昨年の総会では、我々がシャープと重要な 2 つのジョイントベンチャーを始める計画があ

るというお話をしました。今日はこのジョイントベンチャーが締結されたというご報告をしたいと思います。

なぜ我々がジョイントベンチャーをしようと考えたか。エネルとしては、ソーラーパネルを多量に、安定した値段で確保する目的と、太陽光発電所を作るというリスクを、パートナーと分割する目的がありました。シャープは、率直に言えば、全く反対のことを考えていました。ソーラーパネル生産において強いシャープは、ダウンストリームである発電所建設において信頼高いパートナーを探していました。そしてカタールニアにあまり活用していない土地を持つもう一つのメーカーST がいたわけで、ジョイントベンチャーに貢献してくれることとなりました。こうした背景から、3つのパートナーはそれぞれの能力を持って、ジョイントベンチャーに貢献しました。エネルは太陽光発電の市場を熟知しており、特に開発には高い能力を持っています。シャープはテクノロジー・プロバイダーです。マルチプルジャンクションという大変重要なテクノロジーを所有しており、また製品改良で競争力を向上させる力を持っています。STはアセットであるプラント提供です。

簡単に2つのジョイントベンチャーを説明しますが、一つ目は「3SUN(トリサン)」といい、ここ数日行われているローマ映画祭のスポンサーでもあるので、名前を目にした方もいらっしゃるかもしれません。これはカタールニアの工場生産をベースとしたジョイントベンチャーです。ソーラーパネル生産の他に、シャープとSTとともに研究開発プロジェクトも進める合意をしています。もう一つは「エネル・グリーン・パワー & シャープ・ソーラー・エネルギー」といい、「S」という頭文字で呼びますが、EMEA 地域(ヨーロッパ、中東、アフリカ)にプラントを作る会社です。ここでも大きなプロジェクトがあります。

3SUNは、立ち上げ時の2011年末には最高出力としては1パネル160メガワットを予定しており、シャープのマルチプルジャンクションのテクノロジーを採用して、数年後には480メガワットへの到達を目標としております。2つの重要な数字があるのですが、1つは3億2千万ユーロという投資金額です。もう一つは雇用で、カタールニアで250人以上、これはイタリアにとってはすごく重要な数字です。2011年末に完成するまで、工場建設にも400人以上が携わります。

2つめのジョイントベンチャー「S」は、こちらのスライドの地図で色が塗ってあるEMEA地域進出を目標としています。約40%の太陽光発電プラントの工場をこのジョイントベンチャーによって建設し、プラントのポートフォリオを見つけ、パイプラインを構築することです。

そして最後に、研究開発プログラムがありますが、これはその内容定義の最終段階に入っています。シャープ、STとともに、ナノストラクチャー、パワーマネジメントといった太陽光発電に関するテーマを掘り下げて研究していきたいと考えています。パワーマネジメントに関しては、ジャンクションボックスなどによって一つ一つのソーラーパネルの効率増加を図るということを研究したいと思っています。こうすることにより、コストだけでなく、テクノロジー自体、補助部品と合わせて、製品により競争力がつけることができます。

これらシャープとの2つのジョイントベンチャーは、イタリア企業と日本企業の協力関係の実例といえます。一緒にビジネスを行う上で、言語、時差、文化の違いなど様々な問題もありましたが、両者の共通したビジョンが何より重要だったので、すべての問題を乗り越えることが

できました。エネル・グリーン・パワーはやり遂げました。これが他の企業にとって牽引力となり、将来的には日本とイタリア企業の協力関係が数多く生まれることを期待しております。

ありがとうございました。